

パラグアイ日食旅行記

小島 豊

私は今回パラグアイに日食を見に行ったので、その様子を紹介します。

私が参加したツアーは、JTB主催、コプティック星座館企画で、参加者は35名（添乗員2名、星座館2名を含む）でした。

10月29日（土）の19時30分に成田を発ち、ロサンゼルス経由23時間余りでサンパウロに着きブラジルに入国。ここからまた飛行機で1時間余りで最初の目的地イグアスに着きました。イグアスには2日間滞在し、ゆっくり時差ボケ解消と観光ができました。（中略）

3日目はイグアスからパラグアイのアスンシオンへ空路1時間の移動。イグアスは天気が悪く夜は雷雨まで降り日食が見られるか不安でしたが、アスンシオンに着くと曇りは多いが晴れ間ものぞき、希望がわいてきた。（中略）昼食後、一部の人はアスンシオン大学で開催された日食シンポジウムに行った。日本からは明星大学の日江井教授が参加され講演を行ったそうです。（中略）夜になると星の観望をしたいという希望が出て、ほぼ全員で近くの公園と川岸に行き、南天の星カノーブスやアケルナルを見ました。

4日目、6時30分に観測地の下見に出発。8時頃観測予定地の牧場に着く。天気は快晴。この牧場には名古屋の永田氏以下9名の観測隊も来て、すでに下見をしていた。また、米国の6名の観測隊もやってくるということがわかる。太陽の高さや障害物を確認し、銘々自分の観測位置を決め、石などで印を付ける。観測地はアスンシオンから国道9号を北西に91km行った、Estancia Modestaという牧場である。下見を終え、アスンシオンの観光とおみやげを買う。

17時から観測の打ち合わせを行う。バスを2台用意し、2隊に分かれて行動することになる。先発隊は星の観望もしたい人で、出発は3時。後発隊は日食のみで出発は5時半。帰日も第3接触後帰る人と第4接触まで観測する人に分かれた。席上、私も「日食情報」のダイヤモンドリング予報を紹介した。また、時計の時刻あわせを行った。晴れる確率は80%ということだ。

5日目、いよいよ日食当日。天気が気になり1時過ぎに起きて外の様子を見ると、曇りがっている。2時半過ぎに機材を持ってロビーに降りると3時組の人はほとんど集まっていた。名古屋隊は予定通り3時に出発したが、私たちのバスはやってこない。少し遅れるのはお国柄かと待ったが全然来ない。1時間近く待ったが来ないので、タクシーで行くことになる。4時頃、タクシーの1号車で添乗員、現地医師と同室の小林氏と観測地に向かう。日食には時間があつたので余り焦らず、バスを待つ間逆さのオリオンや天頂近くのカノーブス等を見ていた。またタクシーの内から南十字星やケンタウルス α 、 β を見ることができた。観測地に近づくとつれ曇りが出てきて、5時過ぎ到着すると一面の曇り。ハワイのいやな記憶がよみがえる。3時組が全員到着した頃には空はかなり明るくなり、曇りも薄くなってきた。機材のセットも終わった6時頃、運転者だけを乗せたバスがやってきた。まもなく5時半組を乗せたバスがやってきた。本部テントで朝食を食べていると米国籍がやってきた。この頃になると曇りの切れ間が多くなり

晴れ間が多くなる。8時頃には太陽の方向にはほとんど雲がなくなる。

8時31分に第1接触。8時45分前後に薄い雲が太陽の前を通るが、その後は快晴。天気心配はない。牧場では、こうしに識別の印を付ける作業を行っていた。私が5分毎に食の様子を写真に撮っていると牧場の人 cameたのでカメラを貸し、皆既の時間を教えた。太陽はどんどん欠けていき、9時40分皆既となる。ダイヤモンドリングを撮るがちょっと遅れてしまう。その後シャッタースピードを変えて写真を撮り、双眼鏡を使い観察する。牧場のガウチョたちも口笛を吹いたり歓声を上げたりしている。そのうちの数人が私の所にやってくる。3分があつと言う間にたち、第3接触のダイヤモンドリングが始まる。今度はタイミングが早く、数枚撮ったところでフィルムがなくなってしまい、ぼうっとダイヤモンドリングを見ていた。(第3接触：9時43分)

皆既が終わりしばらくして、観測成功の乾杯と記念撮影を行い、これで一部の人はホテルに引き上げた。私たち数人は、しつこく第4接触まで撮影や観測を続けた。第4接触、11時00分を見届け、観測終了、ホテルに戻る。

もうあとは日本に帰るだけ。昼食、荷物整理を行い、15時にホテルを出発。アスンシオンからサンパウロへ。サンパウロからロサンゼルス経由で成田まで24時間余り。アスンシオンからだトランジットも含め30時間の空の旅を終え、11月5日(土)13時40分に成田に帰ってきた。

